

お知らせ

専門特殊講義 I (実践知的財産法) 27fy 木 2 【JS】 601 教室 教員：杉山 務

URL: <http://faculty.hakuoh.ac.jp/ip/>

テキスト：「事業戦略と知的財産マネジメント」特許庁 工業所有権情報・研修館

- 第1回 4/9 オリエンテーション：社会・経営の変容と知的財産<1章>9-24
- 第2回 4/16 イノベーションモデルの変遷<2章>25-38
- 第3回 4/23 事業経営における知財マネジメント<3章>39-56
- 第4回 5/7 知財マネジメントとしての標準化<4章>57-74
- 第5回 5/14 独占市場形成のビジネスモデル<5章>75-88
- 第6回 5/21 技術相互利用型ビジネスモデル<6章>89-104
- 第7回 5/28 基幹部品主導型モデル<7章>105-114
- 第8回 6/4 完成品主導型モデル<8章>115-122
- 第9回 6/11 機器本体を巡るビジネスモデル群<9章>123-140
- 第10回 6/18 ブランドの知財マネジメント<10章>141-158
- 第11回 6/25 中堅・中小企業の知財<11章>159-178
- 第12回 7/2 ビジネスモデル開発競争<12章>179-192
- 第13回 7/9 事業戦略, 研究開発戦略, 知財戦略の一体化<13章>193-208
- 第14回 7/16 企業経営の諸側面と知財マネジメント<補章>209-216
- 第15回 7/23 全体まとめと最新知財情報
- 定期試験 7/30

【成績評価】定期試験 50% 授業内 RP 30% レポート 10% 受講態度 10%

定期試験：正誤, 穴埋め, 説明の複合問題を予定

授業内 RP (Reaction Paper)：ミニ問題と授業の感想を授業終了時に提出

レポート：A4用紙を使用し1500字程度の内容の報告書1通

受講態度：授業への協力を評価 代替措置の可能性あり

【参考情報】「知的財産権制度入門」平成26年度(特許庁) <http://www.jpo.go.jp/indexj.htm>
http://www.jpo.go.jp/torikumi/ibento/text/pdf/h26_syosinsya/all.pdf (28.5M)

【その他】レポートは, 7月21日(火)までにレポート提出ボックス(G4)に提出
 上部に氏名と提出日を記載し, 表紙を付けずに提出(手書きの場合ボールペン類を使用)

【参考】 レポートのテーマは、授業に関連するものであれば任意である。参考として以下のものを提示する。

- 1 テキストで紹介されている以外の模倣品の具体例をあげ、それが真正品を扱う企業・団体やその事業にとってどのような影響を与えているかを調べなさい。また、顧客にとって、事業者にとって、社会にとって、どのような影響を与えるのかを深く考察しなさい。3章
- 2 工場内の製造技術について特許化した場合、他社に真似されたとしても発見や立証は困難である。具体的にどのような技術が該当するか考察しなさい。3章
- 3 標準化されているために便利な身近な製品をあげ、どのように便利かを述べ、それがどのように標準化されているかを調べなさい。4章
- 4 標準化されていないために不便な製品をあげ、どのように不便かを述べ、標準化するにはどうすればよいか、考察しなさい。4章
- 5 医薬品産業における製品の特徴と知財マネジメントにおいて、医薬品分野で、ライセンスがなされない理由を、医薬品産業の特徴を踏まえて説明しなさい。5章
- 6 エレクトロニクス関連企業における技術相互利用型ビジネスモデルや知財マネジメントの考え方や留意点等について、説明しなさい。6章
- 7 インテルの事例のような基幹部品主導型モデル(「インサイドモデル」)に則った事業を探し、どのような事業か、なぜそれを「インサイドモデル」とみなすのかを説明しなさい。7章
- 8 日本の企業が「インサイドモデル」で成功した1つとしてデジタルカメラがあげられる。なぜ、これが「インサイドモデル」であるかについて調べて、その知財マネジメントについて説明しなさい。7章
- 9 日本が強いと言われている精密部品産業を調べ、どのような製品がどの程度の国際シェアを誇っているのかについて、その企業の経営状態と比較しなさい。7章
- 10 アップルの事例と同様な完成品主導型(アウトサイド)モデルに則った事業を探し、どのような事業か、なぜそれが完成品主導で成功しているのか、具体的に説明しなさい。8章
- 11 単体の完成品(スタンドアロン製品)がネットワークサービスと関連することによって付加価値が高まるとすれば、現在単体の製品をネットワークにつなげるとどうなるかを検討し、それがビジネス的にどのようになっていく可能性があるかを説明しなさい。8章
- 12 テキスト9章の4つのモデル(プリンタビジネスモデル、エレベータビジネスモデル、ソリューションビジネスモデル、オペレーションビジネスモデル)について、それぞれ紹介された以外の例をあげ、説明しなさい。9章
- 13 コラム(ホットペッパー)を参考にして、サービスビジネスにおけるビジネスモデルの変革が、製造業の事業にとってどのような影響を与えているのか、あるいは将来与えるようになるのか、検討しなさい。9章
- 14 身近な製品の商標と、それを販売している企業の商標(又は商号)が異なる事例を集め、それらから気がついたことを述べなさい。また、商標の使用について争われた(裁判沙汰になった)事例について調べ、その顛末について説明しなさい。10章
- 15 身近な製品の意匠と、それが意匠権で守られているかどうかについて調べなさい。また、意匠の実施について争われた(裁判沙汰になった)事例について調べ、その顛末について説明しなさい。10章
- 16 あなたの身近な地域ではどのような地域団体商標があるか、またその効果はどうであるかを調べ、それを説明し、更に今後の地域経済の活性化につながる活用方法について検討しなさい。10章
- 17 流通ブランド(プライベートブランド)とメーカーブランド(ナショナルブランド)の製品について、品質や価格にどのような違いがあるかを調べ、それを説明しなさい。10章
- 18 後藤金型興業所の知財マネジメントについて、「東洋製罐へ特許権を売却し、東洋製罐より通常実施権の許諾を得る」という戦略を採用しなかった理由について考察しなさい。その際、まず上記の戦略を採用した場合の後藤金型興業所のチャンスやリスクについて列挙し、そのうえで採用しなかった理由を述べなさい。11章
- 19 「準完成品」を使っている身近な製品を考察し、その製品の部品はどのようなものか、あるいはそれが部品として使われる上位の完成品は何か等を検討して、何に気がついたかを説明しなさい。12章
- 20 「モノの所有からサービスの使用へ」という移行が見られる事例を取り上げ、その概要について説明しなさい。12章
- 21 技術開発競争に加え、ビジネスモデル開発競争時代、あるいは「知(技術)を使う知」の時代が到来し、事業競争力が技術だけでなくビジネスモデルにも大きく依存する時代になったことについて、説明しなさい。12章
- 22 身近な題材を例に、イノベーションシナリオを実際に描いてみなさい。13章